

ストップ・リニア！訴訟 ニュース

第41号 2025年5月15日発行

発行 リニア新幹線沿線ネットワーク <http://linearstop.wix.com/mysite>

～^{おおくてまち}深刻化する岐阜県大湫町の水涸れと地盤沈下～

JR東海「環境影響評価書に記載されていない事項は答える必要ない」

ストップ・リニア！訴訟 控訴審第5回口頭弁論（4月24日）



4月24日、ストップ・リニア！訴訟控訴審第5回口頭弁論が東京高裁101号法廷で行われました。

入廷前の集会では、弁護団事務局長の横山弁護士、訴訟団副団長の原さんがあいさつ。

JR東海労、田園調布の三木さんが連帯あいさつをされました。

原告側、服部隆さんの「南アルプス蛇抜け沢踏破ビデオ」を証拠提出

吉田徹裁判長は、冒頭、今後の裁判の進行について、工事による被害が続いている状況の中で、原告・被告双方の弁護団に、準備している意見陳述の予定を確認。

これに対し、原告側の弁護団は「南アルプス蛇抜け沢踏破した記録のビデオを証拠として提出するので、次回法廷での上映をお願いしたい」と要請。

被告側の弁護団は、「環境影響評価書に記載されていない事項は答える必要ない」との事でしたが、次々回の第7回の口頭弁論を10月30日開催することで合意しました。

中間判決上訴勝利に向け 最高裁職員にチラシ配布と 書記官に要請

東京高裁で口頭弁論が行われた同日午前8時から9時までの1時間、最高裁門前で最高裁の職員を対象に、チラシを配布しマイクで訴えました。

この行動には、弁護団の関島弁護士、横山弁護士、原告からは6名が参加しました。

その後、担当書記官を相手に、リニア工事による住民生活の安全や自然破壊を訴える原告に適格を認めない下級審の判断の誤りを正す最高裁の公正な判断を求めました。

沿線各地では工事進捗に伴ない水涸れや事故が発生している。事故は不備なアセスによるもので、アセスを鵜呑みにした国交省の事業認可は取り消すべきである。



岐阜県瑞浪市大湫町の 水涸れ問題について 岡本浩明弁護士が 意見陳述

前回、1月23日意見陳述予定だった岡本浩明弁護士が、瑞浪市大湫町の日吉トンネル南垣外工区における井戸水などの減水及び地盤沈下の問題に関する現状について意見陳述しました。

JR東海は2024年2月頃には既に観測井戸の水位が低下していることを認識していた。しかし、岐阜県に報告したのは2024年5月であり、工事を中止したのも同月20日でした。

その後、岐阜県の環境影響評価審査会地盤委員会において、状況の報告や対策の検討がなされてきました。これまで9回の地盤委員会が実施されたが、直近の1月22日に実施された第9回地盤委員会においても、地下水位の低下の抑制や回復については、全く目途が立っていません。

当日、JR東海が提出した地表面計測結果の表

* 瑞浪市ホームページで4月24日付が掲載

2025年1月18日、JR東海は、住民説明会を開催し、3つの代替案を説明。しかしそのうち、遮水壁案と湧水のポンプアップ案についてはいずれも実現が難しいというものであり、参加した住民からは、「実現できないものを提案してもらってしょうがない」と厳しい指摘がされました。

1年経っても被害拡大防止の対策なし

この様に、一度壊された自然環境は回復することも、被害の拡大を防止することも容易ではありません。

そのため、工事を実施前の環境影響評価が重要なのです。しかし、JR東海は、環境影響評価で、地下水への影響については、「一部の地域において影響があると予測したが、『薬液注入工法における指針の順守』及び『適切な構造及び工法の採用』環境保全措置を確実に実施することから、地下水の水質及び水位に係る環境影響の低減がはかられていると評価する」としていました。

金銭解決で凌ごうとするJR東海の狙い

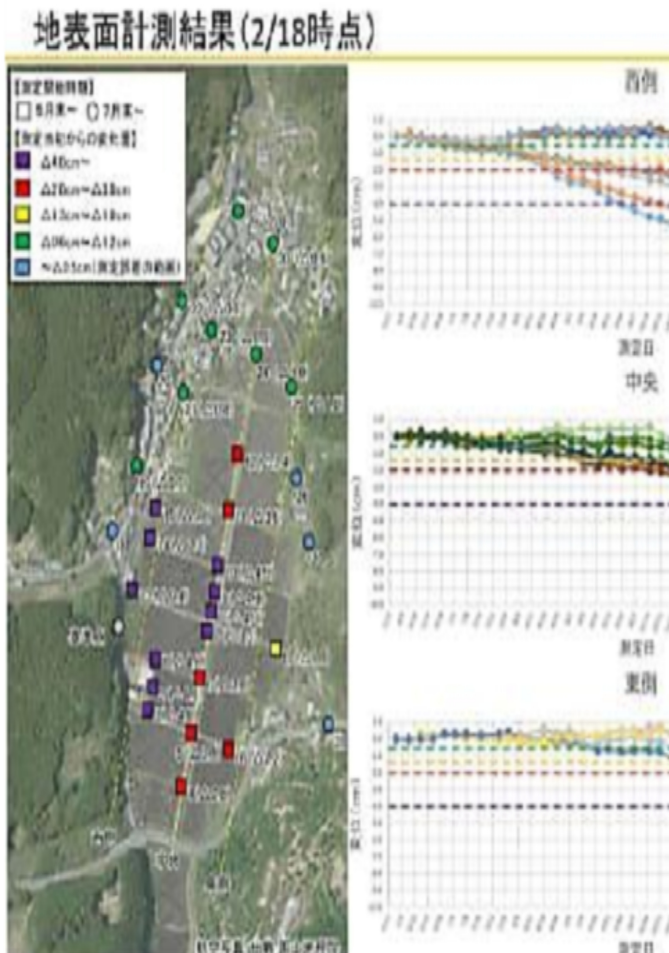
とにかく工事を優先し、破壊した自然環境はそのままに、地域住民に対して代替手段や金銭補償で済ませれば良いというのがJR東海の姿勢であると言わざるを得ません。

このまま工事を続けさせれば、沿線のいたるところで自然環境が破壊される恐れがあります。

以上により、JR東海が行った環境影響評価はずさんなものであり、環境影響評価法に違反する違法なものです。従って、速やかに工事の認可は取り消されなければなりません。

以上

次回裁判 7月24日(木)
次々回 10月30日(木)
午後1時半 東京高裁101号法廷



報告集会 ずさんな環境影響評価 住民（地権者）の人権無視の実態 ～沿線各地からの報告～

第5回口頭弁論の後、15時半～衆議院第一議員会館で報告集会が行われ、会場一杯の50人が参加しました。

最初に、関島保雄弁護士が「国が工事实施計画を認可する前提となったJR東海の環境影響評価がずさんだったことは明かで、今後もトンネルを掘れば、各地で同じような現象が起きる可能性が高い」との認識を示しました。

愛知県春日井市でも地下水が涸れる トンネル工事の影響か？ 川本正彦（リニアを考える愛知県連絡会）

春日井市リニア西尾工区地内 明知町で起きた水枯れについての状況を報告します。

2025年2月時点で民家の池の湧き水、^{たんぼ}田圃の井戸が涸れました。

2023年に事業所では水が濁ったため数百万円の投資をして、ろ過装置を複数取り付けて対応しました。そのあと、建物の壁にひびが入り、床が凸凹になったそうです。

建物にひび割れ、地下水が濁る、湧き水が減少して池が枯れる。井戸が枯れる現象がなぜ起きたのか

令和3年から本格的に始まったトンネル本坑工事3,150mの進捗によって起きたと考えています。

トンネル工事掘削に伴う昼夜2回のダイナマイトによる発破振動が明知町一帯に伝わり、建物が揺れた。風呂が揺れて水があふれた。日中、畑作業で揺れた現象が起きていました。

振動で「地下水脈に影響が起きて、地下水が濁る。井戸が涸れる、湧き水が涸れる等の現象が起きた」と私は考えています。

JR東海は「水涸れは自然現象である」と言っていますが、リニア事業が影響していることは明らかです。

国会会期中で忙しい中、会議室を借りていただいた山崎誠衆議院議員（立憲民主党）左側と山添拓参議院議員（日本共産党）右側があいさつ。どちらも、「大深度法」の撤廃について言及されました。



大西大通り新設計画 ここが納得出来ません！！ 桜井真理（リニア新幹線を考える相模原連絡会）

1、トンネルの上に道路

住民はここに住めると思ってJR東海と契約した人が多い。

2、道路計画に必須の住民意見を全く無視

“寝耳に水”の計画

西橋本の当事者住民は、構想・計画の段階で意見を求められませんでした。

3、現在の車の通行台数を出していない

既存の道路の活用について検討しない

「既存の道路を整備活用したらどうなるか」の住民の声に全く回答がありません。

4、駅前のまちづくりの計画が定まっていない

肝心のまちづくりで何ができるかも分からない中で、100軒もの家々を立ち退かせる必要性は到底理解できません。

（大西大通り新設に反対する会チラシより）

相模原市は、2025年4月に「リニアまちづくり推進本部（本部長：本村賢太郎市長）を設置

リニアまちづくり課を2つの組織に改編

・リニアまちづくり課＝橋本駅南口の土地区画整理事業など、まちづくり全体の計画を推進。

・リニア拠点整備事務所＝大西大通り線をはじめとする道路事業の用地補償に関する取組や、関東車両基地（鳥屋地区）の整備等に関する調整などを行う。

百年のクスノキ伐採についての抗議書

25年4月21日、県立相原高校創立記念樹クスノキを市民が抗議する中で伐採開始。23日には、根元から伐採されました。（切り株は相原高校に…）

歴史は繰り返す？リニア駅前広場 リニア長野県駅周辺の状況 住民無視の飯田市政 春日昌夫(飯田リニアを考える会)

昨年3月29日に「第2回リニア中央新幹線静岡工区モニタリング会議」でJR東海の社長が2027年名古屋開業は実現できないと認めて以来、JR東海は県内の各工区について、工事の完了時期が遅れることについて説明会を開いてきた。



2月27日、飯田市は市議会全協で、リニア駅周辺整備について約91億とみていた総事業費が約144～149億円にふくらむと説明。増加分についてJR東海に補填できないか相談を始めた。駅工事と関係なく工事が行える約3.8ヘクタール部分に駐車場やイベント広場を第1期として整備し2028年度から利用する方針。佐藤市長はJRの負担の仕方について協議したいと説明。JR東海の丹羽社長は4月11日の会見で、飯田市の申し出について3月からやり取りを始めたと述べた。

要対策土の活用先は限定される

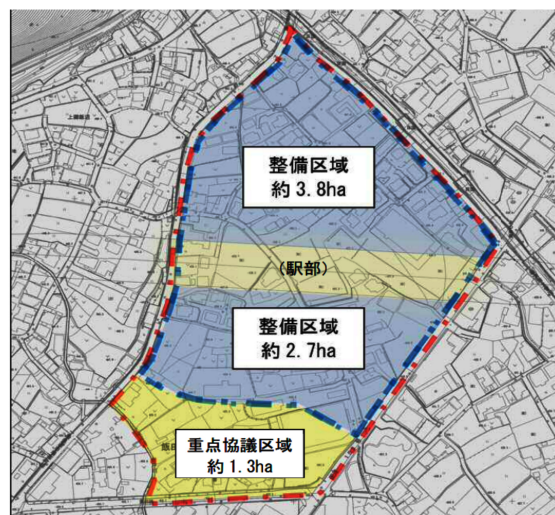
JR東海は自社用地である小渋川変電所の造成工事について、要対策土を擁壁部分に使うが、検討したが盛土の内部には使えないと判断。公共事業での活用先も限定されることを自ら示した。

JR東海の要対策土の処分・活用方針は場当たりの

JR東海の見解は、人の住む地域に置くべきでないこと、土は移動すべきでないという環境を考える上で重要な点を無視している。

JR東海はお殿様？

そののけそののけお馬(リニア)が通る…



出典：第5回リニア駅周辺整備検討会議資料（H28.3.14）加筆修正

現ルートは明り部の延長が約4.1km、JR東海が最初に提案したルートでは約3km。ルートや駅位置については、作りやすいところ、人家の少ないところというJR東海の選定基準は、住民には良心的だったといえなくもない。

飯田市や広域連合が、水源や文化財と住民の立ち退きの犠牲を秤にかけて考えた形跡はない。そんな市が移転者の最後の1人まで寄り添うことはなかった。駅位置は自治体内の議論。住民の意向を聞くべきだったがそれはなかった。

「南アルプスからのSOS」

リニア工事中止求め山岳関係者が集会 天野捷一（ストップ・リニア訴訟団事務局）

4月20日、長野県松本市で登山家グループが呼び掛けた「リニア工事中止を求める集会」が開かれ、山岳関係者や登山愛好者ら70人が参加しました。

服部隆さんが、「南アルプス蛇抜け沢の踏破ビデオ」を紹介、自然の美しさとリニアトンネル工事による地下水の流出に危機感を訴えました。

宗像充さん(大鹿村)の司会で、馬目弘仁さん(山岳ガイド)と猪熊隆之さん(山岳気候予報士)のトークでは「山塊の広く原生林に恵まれ、沢登りも楽しめる南アルプスの魅力を語りました。

最後に、リニアトンネル工事中止が呼び掛けられました。